# 瀧谷山報

通巻183号
［令和6年9月発行］

## 【今後の当山行事予定】

### 秋季大祭　10月27日

◆御本尊御開扉大護摩供〔本堂〕
〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

◆大般若経転読付大護摩供〔本堂〕
午前11時30分

◆柴燈大護摩供〔境内〕
正午頃開始　午後1時頃点火

### 七五三詣り　10月1日～11月末

◆七五三祈祷会〔本堂〕
●平　日〈午前〉10時・11時30分
●土・日・祝〈午前〉10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

### 納め不動　12月22日

◆御本尊御開扉大護摩供〔本堂〕
〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

| | |
|---|---|
| 日々のお護摩祈祷 | ●平　日…〈午前〉7時・10時・11時30分<br>●土・日・祝…〈午前〉7時・10時・11時30分　〈午後〉1時30分・3時 |
| 交通安全祈願（車のご祈祷） | 午前9時より午後4時　毎時0分・30分<br>毎月第4日曜日・10月2日・11月5日は交通安全のご祈祷はありません。 |
| 月例祭（毎月第4日曜日） | ●御本尊御開扉大護摩供…〈午前〉6時・10時・11時30分　〈午後〉1時30分・3時<br>●滝不動堂護摩供・宝剣加持…午前9時頃～午後2時頃（滝不動堂山伏に直接お尋ねください）<br>月例祭は交通安全のご祈祷はありません。 |
| 【ご祈祷のない日】 | 10月2日（大掃除のため）<br>この日は、お護摩祈祷は朝7時のみ、交通安全のご祈祷はありません。 |

行事の予定は変更になる場合がございます。
詳しくは瀧谷山公式ホームページにて随時ご案内いたしますので、
来山前に今一度ご確認ください。

令和6年9月発行
通巻183号
●発行所：瀧谷不動明王寺　〒584-0058　富田林市彼方（オナカタ）1762　電話 0721-34-0028　振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純榮　●編集人：荒谷純榮

# ウサギとカメ

〝もしもしかめよかめさんよ〟に始まる唱歌は広く知られ、その歌詞とメロディは知らず識らずのうちにわたしたちに馴染んでいる。明治期の作詞家である石原和三郎は童謡唱歌の普及に励み、題材の多くを伝承する物語に求めた。「うさぎとかめ」もまたギリシャ由来のイソップ物語に典拠がある。

さて石原が作詞した場面構成は4つ。(1)ウサギがカメの遅速さをからかう。(2)それに反発したカメはウサギに競争を挑む。(3)二者が競争を始めるとウサギは一気に駆け出し勝利を確信してひと眠りをする。(4)ウサギは深い眠りに落ち、カメは先着しウサギの遅速さを笑う。このはっきりとした場面展開から努力を惜しまないカメを讃え、不覚をとったウサギを非難する印象をもつ人も多い。

そもそも古代ギリシャにおけるイソップ物語の原典をみると次のような短文である。

「亀と兎が速さのことで争いました。そこで彼らは日時と場所とを定めて別れました。ところが兎はもって生まれた速さを恃んで駆けることをおろそかにし、道をそれて眠っていました。亀の方は自分の遅いのをよく知っていましたから、休まず走りつづけました。こうして亀は眠っている兎の側を走り過ぎて目的に達し、勝利の褒美を獲ました。この話の明らかにするところは、生まれつきがゆるがせにされると、それはしばしば努力に打ち負かされるものだ、ということなのです。」

（山本光雄訳　『イソップ寓話集』所収「亀と兎」、岩波文庫版）

見較べてみると微妙な相違に気付く。石原の見解は不断の努力を惜しまなかったカメの立場であり、対してイソップの原意は能力高くとも自信過剰になって相手を見くびると痛い目に遭うというウサギの立場に近い。この違いから言えることは、動物を演者に見立てて処世術を語るイソップ物語そのものに高すぎる倫理観は求めず、人間のおかしさや悲哀をそこに見てとるほうがちょうどいい。

石原のようにカメを応援したい気持ちは日本的には支持を得やすい。勤勉や努力は今もなおこの国の美徳とされ、また亀の生態から長寿長生の象徴とみなすのも東洋的色合いだろうか。スローライフや田舎暮らし志向もカメ的な生き方に重なる。とはいえイソップ物語に登場するカメは決して賢者ではない。このようなお話も載っている。

「亀は鷲に飛ぶことを教えて下さいと願いました。すると鷲は亀の生まれが生まれなので、そんなことはとうていできるものでないと忠告しましたが、亀はたってと願って止みませんでした。そこで彼は亀を爪で掴むと空高く連れて行って、それから放しました。亀は岩の上に落ちて打ち砕かれてしまいました。この物語の明らかにするところは、争いを好んで賢い人たちの言うことをきかず、その身を傷つけた人々が多い、ということです。」

（前書所収　「亀と鷲」）

話を戻そう。一方ではウサギを支持する見解もまた多分の支持を得るはずである。効率や成果を意味するパフォーマンスという言葉は現代社会で重用され、時間に関しては「タイパ」、費用に関しては「コスパ」などと符合のように用いる。情報技術の進捗、交通インフラの高速化、月探査計画などは文字通りのウサギ跳びにちがいない。ウサギ的視点の発想と恩恵に、日本も他国もひいては地球規模で浸かっている。

あるいは今の日本社会で現象化している「終活」といわれるものもウサギ化の一類に入ろうものか。それは自分の人生たる終焉をも効率よく仕上げることを半ば強要されているように映らなくもない。所詮人生は自らの力のみで思うようにならないことばかりであるにもかかわらず、自分の力だけで成果を出さねばいけない空気感が漂うのはさて健全といえようか。「おたがいさま」という言葉があるように、長年のウサギ的感性から抜け出し自分以外にもっと寄りかかり、その身を委ねてみるのも爽やかなことだろう。

きっと人間にはウサギ的な成果主義を望む生き方と、ゆったり構えて生きざるを得ないカメ的なものが同居している。そして偏りなく双方がバランスをとった時に人生の妙味に触れ得る。そのためには早起きをする、ごはんを心していただく、掃除をする、〝ありがとう〟を言う、芸術や読書を愉しむ、散歩する、お日さまを浴びる、夜空を仰ぐ、花を飾る、香を焚く、合掌する習慣を持つ、そんな一見些細なことこそが至極大事だとしみじみ感じる。

今回話題としたウサギとカメのような競合も大仏さまの掌の上でこちょこちょと動き回る程度に過ぎないもの、世事の大半とはこうしたものばかりかもしれない。人間とは、かくもおかしくも不思議で愛すべきものである。

酷暑が徐々に去り秋に向おうとする今、♪もしもしかめよ♪と口ずさみながら、さて自分の歩みはどうであろうかと回顧するのも一興である。

# 秋季大祭

## 10月27日(第4日曜日)

大般若経転読付大護摩供
柴燈大護摩供厳修

令和6年10月27日(日)、瀧谷不動尊では秋季大祭をお勤めいたします。

午前11時30分より、本堂にて大般若経転読付大護摩供を厳修。『大般若経』六百巻を転読(てんどく)という作法により読誦し世界平和・万民豊楽を祈願。あわせてご参詣の皆様のお願い事を祈念いたします。

その後、午後1時より、瀧峰大護摩講の修験者による柴燈大護摩供が盛大に勤められます。境内中央に築いた大きな護摩壇に火が燈され、炎の中に数千本もの護摩木を投じて、祈りを込めてお焚きします。

なお今年の秋季大祭は、秋の彼岸との兼ね合いにより10月27日に実施いたします。

●御本尊御開扉大護摩供
〔本堂〕午前6時

●大般若経転読付大護摩供
〔本堂〕午前11時30分

●柴燈大護摩供
〔境内〕正午頃開始
午後1時頃点火

◉護摩木…1本　300円
随時受付中
お願い事を書いてお供えください。



# 七五三詣り ご案内

## 10月1日～11月末

瀧谷山では、毎年10月1日より11月末まで、七五三のご祈祷をお勤めしております。

七五三のご祈祷をお申込みいただきますと、本堂でのご祈祷のあと、お子様ご自身に絵馬にお願い事を書いていただき、お札・身代守のほか、千歳飴などの縁起物をお渡しします。また、参拝記念の撮影所がご利用いただけます。

ぜひご家族皆様でご参詣いただき、お子様・お孫様の健やかな成長と幸せをお祈りください。

●ご祈祷時刻
平　日…午前10時、11時30分
土日祝…午前10時、11時30分、
午後1時30分、3時
ただし10月2日はお勤めがありません。

◉ご祈祷料…5000円より

◉授与品…お札・身代守・絵馬・
千歳飴・おもちゃ

# 装束に見る密教

修験道とはどのようなものであるか。日本古来の山岳信仰と仏教、密教などが密接に融合し、発展した独自の宗教との見方もあるし、山岳修行に重きを置く仏教の一派・宗団と位置付ける解釈もある。始祖・役小角（えんのおづぬ）（634―701）以来、長い歴史の中で柔軟に、自在にあらゆる思想を吸収実践し、多面性と奥深さが醸成されたのだと考えられる。

柴燈護摩道場に入る「旅の行者」。入場に先立って行われる問答で、装束の一つ一つの意味を説くのも、柴燈護摩供の見どころの一つ。

修験者、あるいは山伏と呼ぶ方もあるだろう。この呼び名一つをとっても由来や解釈は多岐にわたるが、普通、「修験者」とは修行により得験した者を言い、「山伏」とは山中に起き伏し、修行する者を指している。

僧侶とは異なる独特の装いは、山岳修行に耐える機能性と、儀礼的な美しさをあわせ持ち、野性味や荒々しさの中にも、どこか高貴で独特の佇まいがある。

修験者には十二ないし十六の道具があり、装束も数の内である。そして、その装いや持物は意匠の細部にいたるまで、周到ともいえるほどに種々の教学的意味合いを持つ。

修験道は密教と不可分の関係にあるが、密教的な解釈において、道具や装束などの持物、あるいは書き文字、手印や真言などの動作・言動はすべて、「仏」や「仏の世界」「仏の徳・救済・究極のさとり」をそのまま現すものである。

このような前提を意識しながら、修験者の装束を見てみる。たとえば修験者がその頭部にいただく頭襟（ときん）。まずこれは仏が頭にいただく宝冠をかたどったものである。「かたどった」とは便宜上そう表現したが、当然、これは単なる「宝冠の真似」ではない。

> 夫れ山伏とは大日遍照の智身、
> 凡身即仏の覚体なり。
> 故に頭襟とは即ち五智の宝冠なり。
> （『修験三十三通記』）

凡身即仏、つぶさには凡夫身即仏身であろう。凡夫とは我々普通の人間をいい、それこそがすなわち仏であるとの意である。引用文では修験者の身がそのまま大日如来ということになる。また、前言した「密教的な解釈」を踏まえれば、頭襟とは単に「宝冠を模した物」ではなく、仏の宝冠と完全に同一である。これを身に着けた修験者は凡夫でありながら仏と一体になり、山を駈け、煩悩の穢れを払い、人々のために祈祷する。

修験者の装束にはさまざまな「不二」の思想が秘されている。凡聖・迷悟などの一見相反する概念が実は一体であるという。人間である修験者の頭襟と、仏の宝冠との一致は「凡聖不二」の現れにほかならない。いうまでもなく、凡は凡夫、聖は仏菩薩のことである。この二つの概念を、二つと認識しながらも、これが実には一体であることを表現しているのである。

頭襟自体は艶のある黒色で、中央は宝珠形に尖り、そこから放射線状に溝があり、十二枚の襞ができている。これにも教学的な謂れがあり、いわく十二因縁を意味している。十二因縁とは、どのようにして苦悩が発生するかを系列化したものである。言い換えれば「苦悩の発生の仕方」を十二の要素に分けて説明したもので、これを逆廻りに観察して潰していくことで苦悩を消し去ることができ、生死輪廻の檻から解脱することができると考えられている仏教の根本的な教えの一つである。

また、冒頭でもふれたように、山における実用性も備わっている。本来頭襟はまさしく頭巾として、小規模の落枝落石や日射から頭部を保護する。あるいは現在の如き装飾的形状を得るに至っても、濫（みだ）りに用いるべきではないにしても、危急の場合は水汲みがわりにもなり、修験者を助けることもあろう。

法要を控え、長老と談笑する瀧峰大護摩講の修験者。僧侶の装束との違いが見て取れる。
瀧峰大護摩講は当山所属の修験者の講（グループ）で、講員は在俗でありながら月毎の講習や入峰修行によって行位を積む。

# 瀧谷山温故知新⑥

## 食作法（じきさほう）

瀧谷山の境内が現在の景観にちかい形に整えられたのは大正時代、信道老僧が住職をされていた時期にあたります。大正二年の鐘楼堂の移築工事から十四年の本堂奥殿の基礎工事着工まで、霊牌堂、石垣の築造、滝道の改修工事と、次々とお堂が建てられ境内の造成が行われました。

こうしたことが可能であったのは、もちろん篤信家によるご寄進にもよりますが、この頃は月参講や不動講などの講社も非常に多く、毎日のように講まいりがあったことにもよるでしょう。講まいりの参詣者には御斎をお出しするので台所は大忙し。この頃は、参籠（泊まり込み）の信者さんも多く、台所は目の回るような忙しさだったと伝えられます。

このように中興慈恭僧正が晋山された明治二十一年から信道老僧が住職を勤められた大正末までの四十年間、瀧谷山は大きく発展し、非常に賑わったのでした。しかし先々代・實乗老僧がたくさんのお弟子を引き連れてご住職になられた昭和になると、世界大恐慌を経て世の中が徐々にキナ臭くなり、長い戦争の時代へと入っていくことになります。

さて先代住職・實善老僧は大正五年生まれ、住職になる前に陸軍第44師団通信隊に入隊し茨城県にて終戦を迎えるまで、物資不足のなか大変な苦労をされたようです。晩年になって、それまで滅多に語ることのなかった戦時中の辛かった体験をふと話し出すこともありました。そうした経験からでしょうか、質素なりにもいつも朗らかに楽しく、食事を非常に大切にされた方でもありました。

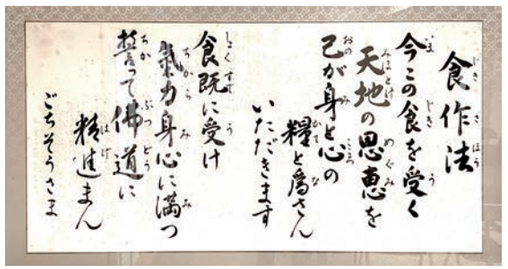
かつてはお供物の野菜も寺の畑で作っていたものです。大根、人参、牛蒡、里芋などの根菜や、瓜や茄子や胡瓜などの夏野菜、冬に向けては白菜や水菜など、畑で育ててお供えし、そのお下がりを精進のお惣菜に調理して、寺内の皆でいただいていたのです。少し珍しいものでは蔓菜も畑に生えており、おひたしにしていただくことが日常でした。

瀧谷山の食堂には實善老僧が考案した「食作法」の額が掲げられており、寺内でお昼をいただくときは各自でこの「食作法」をお唱えしてから、また奉讃会の講習会では全員で一斉にお唱えしてからの食事となります。

食作法

今この食を受く
天地（みほとけ）の恩恵（めぐみ）を
己が身と心の
糧と為さん
いただきます

食既に受け
気力（ちから）身心（み）に満つ
誓って佛道に
精進（はげ）まん
ごちそうさま




いつもの「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶に加えて、この「食作法」を唱えると、自分で畑で野菜を育てていなくても、食物の恩恵がどこからやってきて、どのように生かすべきなのか、食の意味を振り返り、そのありがたさをあらためて意識することができます。

みなさまも食事の際に、この「食作法」を唱えられてみてはいかがでしょうか。



# お寺のごはん

## 17 糸なんきんの酢味噌

不思議な瓜、糸なんきん。美しいレモン色のかわいい枕型です。中の果肉がほろほろと糸状にほぐれていく様は何とも不思議です。スーパーに年中出回っている野菜とは違って道の駅などで見かけることが多い地場のお野菜です。

甘くはないので使いやすいお野菜です。

**材料**

●糸なんきん　●白味噌　●お酢　●塩　●お砂糖　●黒ごま

**作り方**

●糸なんきんは半分に輪切りにいたします。
●お鍋に入れてゆがきます。
●湯がきながらお箸でほぐしてゆくとほろほろとほぐれて糸のようになってきます。
●最後までほぐしてゆくと殆ど黄色い薄皮だけが残ります。
●少し水気が残るくらいにしぼって酢味噌で和えます。
●酢味噌はお口に合うようになさってください。お味噌がコツコツしない方が口当たりがいいので、なんきんは搾りすぎないよう加減してくださいね。

**出来上がり**

小鉢やガラス鉢に盛ったら黒ごまを天盛りにします。

# 瀧谷山の四季⑨

このコラムでは季節ごとの瀧谷山の風物をご紹介しておりますが、山報が発行される時期にあわせて書いていると、どうしても紹介できない風物も出てきます。そこで今回は少し季節外れですが、五月末の出来事をお話しします。

瀧谷山に少し珍しいお客様がやってきました。サンコウチョウという夏鳥です。「ツキ、ヒ、ホシ、ホイホイホイ」というさえずりが「月、日、星」と聞きなされることから「三光鳥」と呼ばれます。近年では個体数が減って、滅多に見られない鳥になってしまったようです。朝の掃除のときに、この「ツキ、ヒ、ホシ、ホイホイホイ」が聞こえたので、オヤっと思って声のする方を眺めると、木々の枝の向こうに黒い影だけが見えました。茄子紺の背中に黒い頭、目の周りと嘴は鮮やかなコバルトブルー、オスは長い尾羽を持っています。その美しい姿を一目見てみたいと、うっかり掃除の手を止めてしばらく見ていると、森の奥から尾羽を翻して現れました。ヒヨドリよりも少し小振りな姿は森の妖精のようで、鮮やかなコバルトブルーの目元がなんともエキゾティックです。しばらく鳴きながら枝を渡っていましたが、また森の奥へと消えてしまいました。あたりはまた静かな風が吹くばかりの、いつもの瀧谷山の朝でした。

聞き慣れない鳥の声がしたら、そっとあたりを見回してみてください。少し珍しい鳥の姿が見られるかもしれませんよ。

## 特志寄進者御芳名

（敬称略 順不同）

泉佐野市
河内長野市
柏原市
福岡県
堺市
河南町
堺市
堺市
東大阪市
堺市
岸和田市

●瀧行場石垣改修工事一式
福岡県



## お初穂米お供え

今年もお初穂米のお供えをお願いする時候となりました。

来年もおいしいご飯が食べられるように、という思いは今も昔も変わりません。初穂とは、今年の実りに感謝し来年の豊穣を祈願して神仏に捧げるお供えのことで、瀧谷山でも農家の皆様よりその年の新米をご奉納いただいてまいりました。現在ではより広く、買い求めた新米の一部をお初穂米もしくはお初穂料（お金）としてお供えいただいており、毎年たくさんの皆様からお供えをいただいております。

奉納いただいたお初穂米は、節分過ぎまでお不動様ご宝前にお供えして来年の豊作を祈念いたします。

●お初穂米のお供え

ご奉納いただける方は、専用のビニール袋に入れ、封をして寺務所までお持ちください。袋はこの山報と同封、もしくは寺務所に用意しております。

## 稲荷明神社 提灯奉納 ご案内

毎年秋に瀧谷山の鎮守 稲荷明神社の提灯を新しくしており、お施主様をお募りいたします。ご希望の方は、寺務所までお問い合わせください。

●稲荷明神社 提灯奉納（お名前が入ります）
大…6万円〈募集数／1張（正面に奉納）〉
小…1万2千円〈募集数／24張〉

## 本堂御宝前 ロウソク献灯のおすすめ

瀧谷山では、御信徒の皆様にお供えいただいたロウソクを、お不動様の御宝前に灯明として毎日欠かさずお供えしています。

灯明は、仏さまへの最も大切なお供えの一つとされ、さまざまなご利益が説かれています。灯明の火は仏さまの智慧の象徴であり、私たちの心を照らし真実のあり方を見せるとされます。そのため、学業上達のお願いをこめて献灯される方も多くいらっしゃいます。

ロウソクには、お名前とお願い事をお書きいただき、お不動様の御宝前にお供えして祈願いたします。

●ロウソクの献灯
大…2，000円
小……500円